

さいたま市長 5月定例記者会見

平成22年5月28日(金曜日)

午後1時30分開会

- 進 行 記者クラブの皆様、定刻となりましたので、ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブの幹事社さん、よろしくお願いいたします。

- 産経新聞 5月の幹事社を務めます産経新聞と申します。よろしくお願いいたします。  
それでは、先に市長から説明をお願いいたします。

### 市長発表

#### 議題1：さいたま市議会6月定例会提出議案について

- 市 長 皆さん、こんにちは。それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。本日の議題は2件でございます。

まず、議題1、「さいたま市議会6月定例会提出議案について」ご説明をいたします。6月の2日から、平成22年さいたま市議会6月定例議会をお願いしているところでございますが、本定例会では、予算議案、条例議案など、追加送付分を含め、合計で37の議案を予定をいたしております。その内訳につきましては、専決議案の報告議案が1件、予算議案3件、条例議案15件、一般議案9件、道路議案2件、人事議案7件でございます。

専決処分の報告議案といたしましては、さいたま市市税条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。予算議案では、一般会計補正予算、老人保健事業特別会計補正予算、病院事業会計補正予算の3件であります。

予算議案の主な内容ですが、一般会計では、埼玉県が設置をしました緊急雇用創出基金からの補助金を活用して実施をいたします、失業者等に対するの雇用、就業機会の提供に要する経費のほか、児童福祉施設等入所児童への特別支援に要する経費、待機児童の解消を図るため放課後児童クラブの開設に要する経費、グリーンライフ猿花キャンプ場の用地取得費、(仮称)大宮駅西口第四地区複合施設整備に要する経費、北浦和駅改札外へのエレベーター整備に要する経費、岩槻駅東口にありますワッツ東館への岩

槻区役所等の公共施設導入に関する経費、浦和駅貨物線旅客ホーム新設事業費の増額に伴う債務負担行為の設定などがございます。

また、老人保健事業特別会計では、社会保険診療報酬支払基金への償還に要する経費、病院事業会計では、医療事故に係る和解に要する経費となっております。

なお、補正額は一般会計で8億4,146万1,000円、老人保健事業特別会計は1,511万6,000円、病院事業会計では925万円、これによりまして補正後の予算総額全体では7,237億1,517万4,000円となるものがございます。

次に、条例議案の主なものといたしましては、情報公開制度の一層の整備及び充実を図り、市民の目線に立った情報公開を総合的に推進をするため、さいたま市情報公開条例及びさいたま市個人情報保護条例の一部を改正するもの、障害者自立支援法に基づく児童デイサービス事業を実施する施設を設置するため、さいたま市はるの園条例を新たに制定するものなどの15条例を予定をいたしております。

一般議案につきましては、新クリーンセンター整備事業建設工事請負契約に係る議案を初めとして、9議案を予定をいたしております。

その他、道路の認定、廃止に係る2議案、教育委員会委員の任命に係る1議案、人権擁護委員候補者の推薦に係る6議案を予定をいたしております。

議題1につきましては以上でございます。

## 議題2：さいたま市観光宣伝部長を決定しました

続きまして、議題2、「さいたま市観光宣伝部長を決定しました」についてご説明をいたします。さいたま市では、既にご案内のとおり、市の文化や伝統の要素である盆栽や人形、漫画、ウナギ、サッカーなどの観光資源となっている各分野を代表する個人や団体などにさいたま観光大使をお願いし、それぞれの分野ごとに積極的に観光PRや市主催のイベント等への参加など、市のイメージアップにご協力をいただいております。

今回、この観光大使とは別に、さいたま市観光宣伝部長として、2人の有名人の方にご協力いただくことが決まりましたので、発表いたします。

初めに、観光宣伝部長のねらいではありますが、テレビなどにしばしば登場する、さいたま市出身の方で、子供から大人まで幅広い世代で身近に感じられるような著名人の方に、テレビの出演番組を始めとした日々の活動を通じまして、ふるさとさいたま市の観光資源全般にわたる魅力を全国にPRしていただきたいと思っております。

名称を「さいたま市観光宣伝部長」といたしましたのは、“観光宣伝”という目的が明確にわかり、そして市民の皆様に親しみやすさを感じてもらえるように“宣伝部長”と命名させていただきました。

それでは、観光宣伝部長のお二人をご紹介させていただきます。まず、土田晃之さんです。旧大宮市出身で、サッカーを初めアニメや家電など、幅広い分野に詳しい方だと聞いております。また、これまでもさまざまな番組を通じまして、市内のコアな話題、青春時代の思い出、例えば大宮駅東口の繁華街の懐かしい話などをお茶の間に披露していただいております。

お二人目は、伊藤さおりさんでございます。旧岩槻市出身で、お笑いコンビ北陽のツッコミ担当であり、「伊藤ちゃん」と呼ばれる、家庭的なだからも親しまれるキャラクターでございます。パンづくりとパンを食べることが趣味のようなので、ぜひさいたま市内の美味しいパンを紹介をして、市をアピールしていただければいいかなと思っております。

土田さん、伊藤さんには、さいたま市観光宣伝部長の趣旨をご理解いただき、その就任につきましてご快諾をいただいております。また、土田さんについては未定ですが、伊藤さんにつきましては6月22日、火曜日にご来庁いただけるよう準備を進めております。今からお会いするのが楽しみでございます。

お二人ともお笑い芸人であり、時には表現が過ぎることもあるかもしれませんが、お二人をはぐくんだこのまちを広く全国に情報発信していただくことを期待をいたしております。

以上です。

#### 関連質問

○ 産経新聞

ありがとうございました。

関連する質問が何かありましたら、よろしく願いいたします。

- 日本経済新聞 日本経済新聞です。
- 観光宣伝部長のお二方なのですが、このお二方には、例えば市のイベントに登場していただくのか、それともふだんの、例えばテレビ出演などで意識的にふるさとの発言をしていただくのか、どんな役割になるのでしょうか。
- 市 長 今回お二方にやっていただきたいと思っておりますのは、そういったイベントに出ていただくこともあるかもしれませんが、基本的には自由な形の中で、特にマスコミ等に登場される機会が多いので、そういったときにですね、自由にさいたま市のことを話していただいたりPRをしていただく中で、さいたま市のよさを理解してもらおうということをお願いをしております。
- よろしいでしょうか。
- 日本経済新聞 委嘱料というのはどれぐらいになるんですか。
- 市 長 委嘱料は、ただ。ゼロです。
- 事務局 観光政策課です。
- 委嘱料そのものはございません。市のイベントなどに特別に出た場合は、プロダクションを通じて出演料や何かの交渉はいたしますが、一般的にテレビに出たときにご自身の発言をされた場合の報酬というのはございません。以上です。
- 朝日新聞 観光大使とどう違うんでしょう。
- 市 長 観光大使はですね、ご案内のとおりさいたま市の独自の文化と言うべき、例えば鉄道であったり、盆栽であったり、あるいは人形であったり、あるいはスポーツであったり、そういった分野に絞ってありまして、その中でさいたま市に在住をし、そして現状もそうですけれども、将来も有望な方々に観光大使として積極的にイベントに参加をしていただくことなどを通じまして、さいたま市の独自の文化を、また独自の観光施設などをPRしていただくことと観光大使ということで続けさせていただいてありまして、それぞれ分野が限定されているものであると思うんですね。それに対して、この宣伝部長のほうはですね、もう比較的自由に、こういった分野というよりは、さいたま市全体のことを、さいたま市全体の魅力を自由に宣伝をしていただく、お話をさせていただく。そして、全国からいろんなメデ

ィアを通じて発信していただくということを目的にさせていただいております。

よろしいでしょうか。

- 毎日新聞 予算のことで、議場改修に約1,500万円ついていますが、市長としては1,500万円かけても議場改修する必要があるとお考えになったということなんですか。

- 市長 中身について、査定については行わせていただいておりますが、これは基本的には議会が議会改革の一環として取り組まれる中で必要となっている経費ということでございますので、そのことについては受け入れていくという前提の中で査定をさせていただいて、提出をさせていただいたものでございます。

よろしいでしょうか。

- 毎日新聞 それと、もう一点、議会に関してのことなんですが、先日敬老祝金のほうは委員会で否決されましたが、本会議でも多分否決されると思われませんが、どう今後対応されようという考えですか。

- 市長 そうですね、本会議の動向を見守ってまずはいくつもりでいますが、その上で、その対応についてもですね、現実的には9月にいろいろ費用発生してくる部分もございますので、今回の議会の中で何らかの対応をしていくことになると思います。その辺についても再度ね、場合によったらこちらでいるんな形でちょっとご提案を進めさせていただくような中で検討していきたいと思っています。

- 毎日新聞 提案するというのは、例えば見直すというのも……。

- 市長 そうですね、段階的に導入をしていくというようなことも含めて、いろんな形で検討を進めておりますので、そういったことも含めて考えていきたいと思っています。

- 東京新聞 今の関連ですが、東京新聞と申します。

段階的というのは、例えばどういったことになるでしょう。

- 市長 そうですね、これはまだ最終的には議会の皆さんにも同意をしていただくことが必要でございますので、具体的にはまだ申し上げるべき段階ではありませんので、ちょっと控えさせていただきたいと思います。基本的には、期限の問題であるとか、あるいは金額の問題だとか、あるいはそうい

ったものも含めていろんな形でご提案をさせていただきたいということを考えていきたいと思っています。

#### 幹事社質問

ドン・キホーテ放火事件の裁判判決について

市長就任1年の感想について

#### ○ 産経新聞

よろしいでしょうか。

それでは、幹事社質問に移らせていただきたいと思いますけども、まず先ほどですね、ドン・キホーテの放火事件に関係するですね、さいたま市を相手取った損害賠償請求が棄却されたんですけども、それに対して市長や市の考えをお聞かせください。

それと、もう一点はですね、先日もお伺いしたんですけども、もう一度公開の場ですね、今年1年、就任1年を振り返った感想をよろしく願いたいと思います。

#### ○ 市長

まず、ドン・キホーテの火災の訴訟事件について申し上げさせていただきたいと思います。

まずは、ドン・キホーテ浦和花月店の火災で亡くなりました3名のご遺族の方に改めてお悔やみを申し上げたいと思います。

今後とも火災等の災害から市民の皆様の生命と財産を守るために、引き続き適正な消防行政の執行に努めていきたいと、このように考えています。

以上です。

あと、1年を振り返っての感想ということですが、先日もいろいろお話しさせていただきましたが、一言で言って、あっという間でもあり、また一日一日が大変長く、また濃密な1年で、5年あるいは10年にも感じられたような1年でありました。

私自身としては、現場主義ということの中で、200カ所以上の現場訪問、学校訪問、タウンミーティング、あるいは車座集会などを実現することができ、職員の皆さんあるいは市民の皆さんとコミュニケーションを深めることができたということには満足をしています。

また、マニフェスト、私自身の掲げたマニフェストにつきましては、昨年発表した、「しあわせ倍増プラン2009」の項目という意味では、1年

目としては約9割ぐらいは達成できたというふうに考えておりますが、一方で目玉政策でありました多選自粛条例、あるいはサッカープラザの問題などについては、まだ明確な結論が出ていないというような現状もございますので、今後これらの達成できなかった課題について、またマニフェスト以外の重要な課題についても今後も全力で実現に向けまして取り組んでいきたいというふうに思っています。

私自身は、1年目は改革に向けた基礎づくりの1年というふうに位置づけておりましたので、今後この2年目以降にこれらの基礎として行ってまいりましたビジョンあるいは仕組みがしっかり回って、人づくり、職員の皆さんの意識改革、あるいはサービスの向上、あるいは市民の皆さんとの協働、意識の共有化といったようなところでまでしっかりと発展できるように全力を挙げてやっていきたい。そして、子どもが輝く絆で結ばれたまちを実現するために、また日本一ひらかれたまち、日本一身近ではやい行政、そして日本一しあわせを実感できるまち目指して、今後もこれまで以上に努力をしていきたい、このように考えています。

以上です。

#### 関連質問

- 産経新聞 何か関連する質問がありましたら。
- 毎日新聞 ドン・キホーテの火災の件ですが、間延びした質問をしていたというような訴えもありましたが、市として消防のほうに今後どういう教育体制だったりを見直すとか、そういう対応策とかは変えたりする考えはあるのでしょうか。
- 市長 そうですね、はい。今指令課におきましてはですね、独自の119番対応マニュアルというものを作成しまして業務に当たるとともに、受信者の基本であります相手の立場に立った親切な対応を徹底しております。災害現場では、常に最悪の状況というものを考えて人命救助を最優先に、安全、確実、迅速な部隊活動ができるように訓練を積み重ねております。引き続きこうした適切な消防活動を徹底してできるように努めてまいりたいというふうに考えています。
- 毎日新聞 その対応マニュアルは、この事件を受けて変えた……。

- 市長 はい、変えたということです。
- 毎日新聞 変えたのは、いつ……。
- 市長 日にちについては、はい。
- 事務局 消防総務課でございます。  
平成の18年(会見後訂正「平成20年」)でございます。
- 市長 平成18年(会見後訂正「平成20年」)。
- 読売新聞 済みません、今の、平成18年(会見後訂正「平成20年」)に更新ということなんですけれども、具体的に、全部でなくていいんですが、どうい  
うところをどう変えたのかというのを。
- 市長 じゃ、引き続き、はい。
- 事務局 消防総務課でございます。  
従前はですね、専門誌が出版しております「119番マニュアル」、これ  
を基本にして対応を図っておりましたが、そういった参考書、また各専門  
誌等、それから事件の集積等を図りましてですね、独自に編さんをしたも  
のを運用しているということでございます。
- 産経新聞 済みません、産経新聞といいます。今の質問に関連するんですけれども、  
結局どこが変わったのかというのを……。
- 市長 変わったポイントをお願いします。
- 事務局 消防総務課でございます。  
先ほども市長からお話ありましたが、第一にですね、接遇の関係という  
ことで、マニュアル等にですね、そういった接遇を事細かに盛り込んだと  
いうようなところとですね、何をどういった形で迅速に聞くかというよう  
なところをですね、事細かに記入ができるような形にしたというふうなと  
ころが改正点でございます。
- 事務局 後ほど、改善点、紙で提出させていただきますので、よろしく願いし  
ます。
- 産経新聞 済みません。もう一点なんですけれども、遺族側はですね、消防局側の  
説明会と称する会合ではですね、対応にも非常に不満を持っているよう  
なんですけれども、それについては市長はどのようにお考えですか。
- 市長 詳細にはちょっと、現状としては把握をしておりませんが、そう  
いったことなども含めてですね、今後その、要するに119番のときに相



手のしっかり立場に立って、まず安全性だとか、確実性だとか、迅速性だとかというようなものを遵守した対応をしていくとともに、やっぱりその後の対応についてもですね、丁寧にやっていくということが必要だと思っております。これらについても、今後徹底させていきたいと思えます。

- 産経新聞 各社さん、よろしいでしょうか。  
それでは、そのほか何か質問がある方はご自由に。

### その他

#### 行財政改革公開審議について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。来月に行革審議の公開をされる予定ですがけれども、事業仕分けと一線を画している理由についてご説明をお願いしたいと思います。
- 市長 違いという意味ということでよろしいですか。
- 埼玉新聞 はい。
- 市長 1つは、事業仕分けの場合には、いわゆる民間の専門家の方に仕分け人ということで入っていただいているわけですが、今回私どもの実施をしますのは、いわゆる担当の職員と行革本部の職員とが、それらについて見直しのための議論を行っていくと。それに加えて、市民の皆さん、これは無作為抽出をさせていただいた市民の方ですがけれども、その方々に、その内容について聞いていただいて、その際に意見を述べていただいたり、あるいはアンケートなどによって、さらに意見を言っていただくような形で、市民の皆さんの視点というものを大切にしながら事業の見直しということですね、総点検をやっていこうということでございます。よろしいでしょうか。
- 埼玉新聞 ただ、その会議の場で、自分で質問ができない、あるいは意見を言えないというのは、参加する市民にとってはフラストレーションがたまるようなことかと思うんですけれども。
- 市長 意見は言えるようになっております。その場で一応、担当部署の職員と、反対側に行革のほうの職員がいて、真ん中にコーディネーターがおりますけれども、それ以外に市民の方にも参画をいただいて、それで質問等についてはございませんが、基本的にはいろんな意見を言っていただくというような場合は、その場で用意を、準備をいたしております。

○ 埼玉新聞 学識経験者や経済界の人間等に出席をさせないというのは、行政のプロ対プロの話し合いに素人の市民ということで、ちょっとその差があるんじゃないかと思うんですが、その点についてはいかがでしょうか。

○ 市長 また、そこでやったものをですね、行政改革有識者会議のほうにも諮らせていただくつもりでありますので、ここはまた公開の場ということになりますので、専門的な方々の、いわゆる意見、あるいは考え方等については、その場でまた聞くことができるというふうに考えております。よろしいでしょうか。

### 「ワッツ（東館）」への公共施設導入について

○日本経済新聞 済みません。岩槻のワッツなんですが、区役所を移転する計画について市民の間から反対の声も出ているようなんですが、どのような説明をしていかれるつもりでしょうか。

○ 市長 これまで自治会の、連合の自治会等でお話をさせていただいておりますが、その際に一部反対をされるというような意思表示をされたり、ご意見をいただいたりというような状況があったと聞いております。これからも自治会も含めまして、さまざまな形でこの区役所の移転について、市民の皆さんにしっかりとご説明をして、ご理解をいただけるような機会をとつくていきたいと、このように思っています。

### 行財政改革公開審議について

○ 朝日新聞 済みません。公開審議の話なんですけれども、担当課の記者会見でも、対象の事業がまだ決まっていないという話でですね、そういう中で市民に招集というかですね、公募をかけているという状況で、市民にとっては不親切な感じもするんですけれども、どんなテーマが<sup>そじょう</sup>俎上に上がるのかもわからないまま募集をするということに対してどう思っているのかというのと、1,000人に公募したという、無作為に抽出したということなんですけど、市長は大体そういう中で何人ぐらい応募されると思っていますか。

○ 市長 そうですね。以前、和光市(会見後訂正「富士見市」)で80名から90名ぐらい、そういった母集団で参加をしていただいたという話を聞いてお

りますので、大体そのぐらいを一つの目安にさせていただいております。

確かにテーマが明確でないということについてですね、そういった参加意欲について多少問題があるんじゃないかというようなご指摘もありますけれども、できるだけ早い時期に内容についてはですね、告知をしながら、テーマによって参加する、参加しないというよりは、かなりテーマ自体も広範な、今のところ30事業ぐらいを予定をさせていただいておりますので、広範なものに当然なってきますので、それでこういった形で、幾つかグループに分けてその事業内容を議論されてくるわけですので、どちら側にそれらの方々が所属をされるかというようなこと、まだはっきり決まっておきませんので、そういう意味では、市政全般についてお伺いをしたいということが趣旨でございますので、その中で、決まり次第お知らせをするつもりでありますけれども、そういった形で今回については実施をさせていただこうと思っております。

○ 朝日新聞 何かチェックするほうも、チェックされるほうも市の内部の人で、一方で市民にはテーマも知らされていないと、かつ締め切り後にテーマが決まるという状況だと思うんですけども、公募の締め切りがですね。それは、ちょっと日本一開かれた行政というには、遠いんじゃないかなと思うんですが、その辺はどう思っているんでしょう。

○ 市長 検討する項目については、できるだけ早くしていきたいと思えますし、要するにその見直しの点検というのは第一弾というか、それも回数としても2回やりますし、そして1回目の結論を受けて、また有識者会議の中で、いわゆる専門家の視点から見ていただくというような作業もございませぬし、また最終的には、行財政改革推進本部の中で最終的な意思決定をしていくという、それぞれ市民の意向を聞く場面と、それから専門的な方々からご意見をいただく場面と、いろいろ幾つか用意をしているつもりでございますので、基本的には1度やっていく中で、また課題がもし明瞭であれば修正をしていくつもりであります。第1回目としては、逆に専門家同士だから見える、要するに一般の方が知らないこともですね、そこでお伝えができるというようなプラスの面もございませぬし、担当の部門と、また行財政改革本部の職員とは、おのずと視点が、立場が違うという部分もありますので、そういったことで十分な議論ができないということにはな

らないというふうに考えております。

- 読売新聞 済みません、よろしいですか。関連して、その議論の<sup>そじょう</sup>俎上に上る議題に、項目の選択の仕方なんですけれども、これは担当課のほうから出してくるという形になるのか、それとも行革本部のほうから指摘してですね、そっちのほうでチョイスするという形になるのか。
- 市長 基本的には、行革本部のほうでチョイスをしているものが大半でございます。
- 産経新聞 よろしいでしょうか。  
それでは、ありがとうございました。
- 市長 ありがとうございました。
- 進行 それでは、以上をもちまして記者会見を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

午後2時01分閉会

この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後訂正された文言等については「会見後訂正」とし、下線を付しています。